



経 緯

令和6年10月4日～6日 輪島市 下(しも)市議員様と社協の方も一緒です

- ◎今年の元旦に発生した能登の大震災には、早々に現地と調整してボランティアを派遣する準備をしていましたが、受け入れ態勢と調整がつかず、8か月以上が経過しておりました。
- ◎9月21日、能登地方の豪雨災害に心を痛めておりました処、大同保育園の卒園児・保護者で宝地院保育園の職員の林先生が輪島市出身であり、2回目に朝3時に出発してボランティアに行かれた様子をお聞き、メールの写真の惨状を見て急遽ボランティアを派遣が決定しました。
- ◎秋の運動会シーズンで、各園とも都合のつきにくい状況の中で、現地社協の役員様が輪島市の市会議員であり、被災者の縁者でもあるため、バス1台40人で参加の予定が、受け入れの体制の関係で30人に制限され、各園が短時間で決定した人々での参加となりました。

活動内容



民家の床をめくって、泥出しを開始しました



こんなひどい 状況です



女性も頑張る



道路はこんなに泥だらけ・・・。

働く人も 泥まみれ・・・。

人の首下近くまで、水に浸かり、

ネバネバのドロが積み重なり、

この鋤取りに 悪銭苦闘・・・。

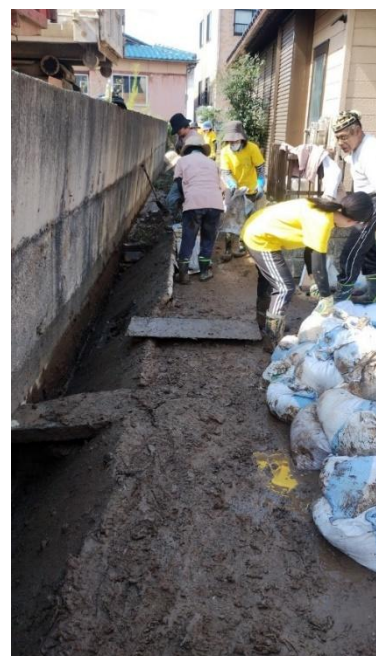
どこまで続くぬかるみぞ・・・。

うんこらしょっと、どっこいしょ!!

行程

- | | | |
|----------|--------|---|
| 10月4日(金) | 19時30分 | 道具類をバスの下に積みこみ、長田区東尻池の本部を出発 |
| | 20時00分 | 湊川神社前で谷村会長・理事の先生方の見送りで合流し出発 |
| 5日(土) | 05時30分 | 悪路の中、輪島市・道の駅に到着トイレ休憩 おにぎり朝食 |
| | 08時30分 | ボランティアセンター到着 配属決定し現地で作業開始 |
| | | 泥集め、泥かき作業、家の座敷板をめくり泥の汲み出し |
| | | 現地の下市会議員のご配慮で、近所のトイレ確保で安心作業 |
| | 17時00分 | 作業終了し、長靴やスコップなどの道具の泥落とし |
| | 19時30分 | 高岡で、遅い夕食の後、ホテル到着 入浴後パタンキュー |
| 10月6日(日) | 05時00分 | 起床し、6時出発して現地へ バス内でおにぎり朝食 |
| | 07時30分 | 輪島市・道の駅でトイレ休憩と時間調整 |
| | 08時30分 | ボランティアセンターに到着し、現地各所で作業開始 |
| | 12時00分 | 作業終了し、長靴、道具の泥を洗い落とし、バスへ積み込み |
| | 12時30分 | 下議員・ボランティアセンターの人々に見送られて帰途へ |
| | | バス内で、お弁当の昼食をとる。帰途悪路の道路で大混雑 |
| | 15時20分 | 温泉センターで、汚れを落とし、早い夕食を取り、帰途へ |
| | 22時25分 | 湊川神社前に帰着、会長・理事の先生方の出迎えを受ける |
| | 23時05分 | 長田に道具・機材を下ろし、整理して、各自帰途に就く |
| 10月7日(月) | 9時00分 | 園の行事で、ボランティアに参加出来なかった、たから保育園、竹の台保育園、たかつか保育園の、各園々長以下数名の先生方が長靴のドロ洗い、道具の整理・乾燥・片付けに奉仕される。 |

- ◎ 今回は、バスの確保と、宿泊所確保に苦労しましたが、お陰様で何とか実施が出来ました。高速道路の通行費用の免除申請では、井上事務局長の努力で手続きをする書類が出来上がり、無料通行をすることが出来ました。
- ◎ 5日と6日の昼食を、現地をお願いしておりましたが、皆様の素晴らしい働きに感動された、下様が、「こちらで持ちますから、要りません。」と、無料提供をして頂きました。
- ◎ 高圧洗浄機を、各園から何台もお預かりして行きましたが、現地は泥だらけの状態、泥捌き、泥出し以外に、手が回りませんでした。
- ◎ 雑巾もたくさんお預かりして行きましたが、最後に現地のボランティアセンターの方々に、お渡しして、「これは助かる。」と、喜ばれました。



あさひ保育園の職員です

土のう袋、600枚持参しましたが、足りなくなり、現地で補充、このブロック塀も斜めに傾いています。危ないです・・・。

7日雨の天気予想に備えて 6日は溝のドロの掬い取り、

老若男女 誰でも働く 輪島です・・・。

この土のう袋を、雨に備えてリレー運び、土手の上に積み上げ、さあ 明日7日は 大丈夫だろう・・・。と、祈るや切也。



このトラックを、下(しも)様が運転して運んでくださいました



こんなに沢山、土のう袋に泥を詰め込み、トラックに運ぶ・・・

水を含み重いものばかり、女性も強い、男も頑張る。

みかり会も、つきかげも、舞子も、きらりも、すずらんキッズも、

報恩感謝会も、たからも、大同も、あさひも、みんなみんな、参加者

みんなが力を合わせて、よく頑張りました。

当支部が工務店の倉庫に保管してある道具類を持参して、社会福祉法人報恩感謝会の施設職員が、今回も率先して（公社）神戸市保育園連盟のボランティアに参加させて頂きました。参加者の率直な感想を掲載させていただきます。

災害ボランティアに参加して

たから保育園 中山 一恵

元旦の地震から9か月、そして豪雨災害。 お供養するたびに何かできることはいつも思っていました。ようやくこの度のボランティアの声がかかり、久しぶりなので体力に不安もありましたが今後、今より若い時はないのではという思いで応募しました。バスが発券する前、現地の方に心を寄せながら作業することの大切さを実際に行かれた方から伺い、改めてさせて頂くのだと胸に刻み出しました。輪島に近づくにつれて見える景色は、道路が片側崩れガードレールがぶら下がっているところが数か所、崩れた山肌、まだまだ地震の起きた時のままの家々がまだありました。復興が進んでいない状態でさらに水害で手がつけられない状態です。作業した地域は、床上浸水した住宅街で側溝・床下にびっしり泥が埋まっているところでした。その泥土をひたすら掬っては袋に入れて運ぶ作業でした。

一人二人ではどうしようもない、これでは頑張る気力も出ないだろうと、何とかしなければと参加したメンバー全員が思ったことでしょう。撤去した泥土は、一日で、用意した土嚢袋600袋を超えました。次々と重い土嚢袋をトラックに積み込み、廃棄場所でそれを下ろしての往復、多くの方の力がなければできなかったことです。一つになった皆さんのパワーに感動でした。それでも一日半で撤去できた泥土は、広い街のほんの一部で途中で終了して

帰らなければならないことに申し訳ない気持ちにもなりました。見送ってくださる方々にはまだまだ終わりがいいことだから・・・私たちは、ホテルでお風呂にも入って休むことができとてもありがたいことでした。テントに寝泊まりし、ボランティアに来ている方もあるようでした。脱帽です。まだまだ手が足りないし、だんだんと関心が薄れていくことが現地の方が心配されていることです。これからも心を寄せていきたいと思います。この度のボランティアで準備や片付け・義援金などたくさんのご協力をいただいたことにも感謝です。皆さんの思いが届いたと思います。参加させて頂きありがとうございました。

能登輪島 災害ボランティアに参加して

（株）渡邊工務店 加地 一公

暑さも少しは落ち着き過ぎやすくなりました。去る10月4日から6日にかけて能登輪島に災害ボランティア活動に参加させていただきました。

1月に震度7の地震に見舞われ、9月には大雨による水害を受けられた被災地を見た時東日本大震災で被災した宮城県石巻市牡鹿半島へボランティアに出させて頂いたことを思い出しました。

震災の津波で漁船が海から丘に打ち上げられ、台風で打ち上げられた漁船が海に流された聞いた時こんなことがあるのかとおどろきました。

輪島も震災と火災そして水害と大変な思いをされましたし、震災から10か月がたつのに、陸の孤島のようにまるで、国から見放されているのではと思いました。

ボランティアの作業は、床下と側溝の泥出しが主な作業でした。今までの経験から泥を触るのは中々大変なことでしたが皆さん協力し助け合いお使いいただきました。

30年前の震災を経験した私たちですが、被災された方々の思いを汲んで少しでも喜んでいただければと思います。

地球温暖化が当たり前の環境になり自然災害が頻繁に発生し、何処にいても被害にあいます。どんな事態になろうともお互い助け合いの思いを持って活動したいと思います。

この度もボランティアに参加させていただき有難う御座いました。 合 掌

能登災害ボランティア感想

（株）ニチポー 野口 政仁郎

毎回、ボランティアの話がある度に、日々、仕事で余裕がない為、行く前は『正直、しんどいな…』と思う事が本音で、参加する事に対して、気持ちが重くなってしまいます…。

しかし「参加するよな？」と声をかけて貰える内が、また、元気に体が動ける間が『人生の花』と自分に言い聞かせて、今回も参加させて頂きました。

出発前のバス内にて、今回の災害で身内の方が被災され、先にボランティアに行かれた方のお話を聞く事が出来ました。 その方が、被災地への辛い現状を、涙を流しながら説明する姿を見て、そして、実際に被災地に到着して思った事は、『本当に、被災された人々の生活は大変である…』という事に尽きます。 ボランティア活動に参加する度、『普段の日常が、本当に有難い事だな…。』と毎回、再認識させられます。

最後に、今回の能登豪雨災害で、中学3年生の方が犠牲になってしまったニュースを見て、改めて『人の命は、わからないもの』だと感じると共に、だからこそ今後も、微力ながらも、世の中に使って貰えるような、自分自身でなければならないと、反省させられました。

被災された方々への、1日も早い復興をお祈り申し上げます。

能登半島豪雨災害ボランティア活動に参加して 本多聞ケアホーム 涌元宣明

令和6年1月1日に発生した能登半島地震による被害が残る地域で追い打ちをかける豪雨災害が発生しました。私は前職の関係で富山県に赴任しており、隣県である石川県にはゴルフやドライブで訪れた大好きな場所の一つです。支部の記念行事においてもご陣所太鼓をさせていただき、いつかは本物を見に行きたいと思う程の場所です。

この度のボランティア活動で訪れた輪島は、地震でビルが倒壊した地区にあり、実際に見た光景は信じがたいものでした。地震による影響で山の斜面が緩みこの度の豪雨により斜面が崩れ土砂が川に流れ込み、川の氾濫により住宅の地上1メートルほどの高さまで土砂が流れ込んでいました。住宅の床下と側溝に溜まった泥水を掻き出し、土嚢袋に詰めて運び出す作業を住民の方々と協力して行いました。復旧・復興に取り組む住民や支援団体の方々の姿を目の当たりにし、今回だけでなくこれからも支援活動に参加したいと思いました。課題として現地までの能登里山海道が一部区間において陥没や地割れにより通行制限があり現地に着するのにかかる時間がかかること。また、住民の高齢化により復旧・復興にも時間を要することです。

能登に住まわれている方々が、健康に留意して再び住み慣れた地域で生活できるようになることを願います。厳しい生活が続くことが予想されますが、皆様の希望の火が消えないように少しでも支援ができたと思います。

ドロと真心の 奮闘記 あさひ保育園 舟橋 博

元旦の能登地震災害に際して、早速現地に連絡を入れましたが、受け入れ態勢と調整がつかず、初めてボランティアなしで迎えた9月、輪島地方の豪雨災害では、大同保育園の保護者（宝地院保育園職員）の輪島の家一帯が被害に遭い、2回目のボランティアに朝3時に出発して行かれる話を連盟の役員会でお聞きして、何とか少しでもお手伝いが出来ないかと、臨時理事会のオンライン会議で、急遽実施が決定しました。バスの確保と宿泊施設の確保に苦労しましたが、奇跡的なお運びで調整が付き、釘のフミ抜防止の中敷きや携帯トイレを買い求めて、連盟役員さんたちからお水やお茶のペットボトルをたくさん差し入れて頂き、出発となりました。

現地は道路がガタガタで曲がりくねり、途中で崩れた家が点在し、電信柱が左右に傾いており、ガレキが積み上げられた状況でした。金沢から輪島迄3時間を要する移動です。

79才で団長となり、現地の市議員様の出迎えを受け、着いたところはドロの中。

現地の配慮でトイレの確保がされており、安心して作業を続ける2日間、あたり一帯の道路と溝はドロだらけ、首まで水に浸かった付近の家の床板を、工務店の加地さんがめくって泥出しと一帯のガレキの片付けで、持参した土のう袋600枚が無くなり、現地で補充する程でした。

本部へ帰還後の次の日には、各保育園の園長以下数名の先生方と加地さんは、長靴のドロ落とし、機材の掃除に丸一日を費やす程でした。各園職員からの義援金も確かにお届けしました。後日、石川県災害ボランティアセンターからお礼状が届けられました。

たくさんの皆様のご協力・ご支援に、心から感謝致します。



大きく残る爪痕が あさひ児童館 山地 藍

貴重な機会を戴きまして、輪島市へ被災地ボランティアに行かせていただきました。実際にボランティアに行かせていただき、豪雨被害はもちろんのこと、元旦に発生した地震の爪痕が大きく残っていることに愕然としました。

私がボランティアに行かせていただいたご自宅は、玄関口に「危険」と張り紙がある家に住まわれておられました。そして今回の豪雨でもまた、床板を外して粘土状になった一面の泥を掻き出さないといけない被害を受けておられました。泥水に浸かった荷物の選別のお手伝いをさせていただいてると、「濡れてしまっている物は、すべて捨てて欲しい。」とおっしゃられました。長年大切に保管されていたと思われるお着物や、生活用品。きっと地震後にも選別をされたことを思うと、本当に胸がいっぱいになりました。

ボランティアセンターの方がお話しされていたことがとても胸に残っています。メディアでは、復興が進んでいると綺麗な現状を切り取られており、本当の現状を伝え広めてほしいとおっしゃられておりました。1日半のボランティアでは、ほんの少しのお手伝いしかできませんでした。私達がボランティアに行かせていただいた意義として、現状を伝え広め、心に留め続けたいと思います。まずは、児童館の子ども達に・・・伝えていきます。

貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

日々の生活の有難さを

あさひ保育園 米澤国香

5日の土曜日は民家の床下に溜まった泥をかき出し、土のう袋に入れて運び出す作業と、押し入れの中の物を一つひとつご主人に確認をしながら残しておくものと処分するものに分類する作業をさせて頂きました。

泥のかき出しは、水分を含んでいる分重みがあり大変でしたが、加地さんや政仁郎くん、そしてあさひ保育園の先生との連携プレーで二間続きの和室の床下の泥を全部かき出すことができました。決して一人ではできない作業だなとつくづく実感しました。また次の日は、溝に溜まった泥のかき出し作業をさせて頂きました。どんどん泥の入った土のう袋が山のように増えていくけれどなかなか溝の中の泥をかき出すには時間がかかり、作業終了の時間となり最後まで仕上げる事が出来なかったのが心残りです。

私たちがさせて頂いた作業もほんの一部だけでまだまだこれから被災された方々は厳しい生活が続く事を思うと日々の生活がどれほど尊くありがたいことか、思い知らされます。

最後に、こうしてボランティア活動ができるのも、バスやホテルの手配、道具一式にすべての食事の手配を下さる方々があるからこそできることです。ありがとうございました。

現地の方々の嬉しそうな顔

あさひ保育園 折戸亜樹

今回、輪島へ災害ボランティアに行かせていただく機会を頂き、参加させていただきました。ニュースなどでは行方不明になった方の事や自宅に戻れず困難な生活をされている方の話を目にすることはありましたが、実際の被災地はどうなっているのだろうとドキドキしながらの参加でした。実際に現地に到着すると建物が壊れていたり、道路に亀裂が入っていたり、また川にも豪雨の跡が見られ、災害の凄まじさを目の当たりにし驚きました。

作業は、民家の床下に溜まった泥のかき出し作業や水に浸かってしまった家財道具の片づけでした。処分して欲しいと言われるご主人の横で、思い出の品を取っておきたいと言われる奥様の言葉に胸が痛くなりました。

2日目には家の周りの溝の泥をかき出す作業をしました。泥の重さに体中の痛みがありましたが、早く水が流れて欲しいと願うお家の方の喜ぶ顔を見ようと頑張りました。最後まで貫通させることはできませんでしたが、それでも作業が進んだことを喜んで下さった現地の方の嬉しそうな顔を見ることができ、少しでも役に立てたことを嬉しく思いました。

今回、このような機会を与えて頂き本当に感謝しています。ありがとうございました。

貴重な体験をして

あさひ保育園 南川智子

今回の水害被害ボランティアに参加させて頂きたいと思った理由は多々ありますが、神戸市私立保育園連盟主催で、食事や宿泊先や道具などすべて手配して頂き、身一つで参加できたことが一番大きく、貴重な機会を与えて下さった谷村会長や舟橋園長先生、各方面の手配や、必要物資の準備を下された方々に感謝申し上げます。何から何までお膳立てして頂いた上で、“ボランティア”という今までの自分には縁遠かった活動に参加できると知り、すぐに「行ってみたい!」と思いました。

参加させて頂くからには自分にできる限りのことをしよう、と意気込みだけは充分に行って参りました。現地に実際に行って感じたことは、復興までにはまだまだ人手もお金も足りないということです。今年1月の地震の爪痕もたくさん残ったままでした。今後も微力ながら何らかの形で能登半島復興を支援したいと思いました。手厚い援助の中、貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

石川県ボランティア

あさひ保育園 岩本七星

ボランティアに参加し、まず感じたことは“地震の被害がまだある”ということでした。道中の道も悪く、倒壊した家屋も多くあり、目に飛び込むたび心が痛みました。担当させて頂いた箇所も地震で歪んだ上に土砂が押し寄せ、どこから手をつければいいのか分からない状況でした。

その後溝の土砂をかきだすという作業をすることに決まり、見てみると溝は土でいっぱいになっていました。果てしない…と弱気になりましたがとにかく目の前の溝を綺麗にしようと2人ずつのペアに分かれ、力を合わせて取り組みました。

溝から出した土砂を土嚢袋に入れ、いっぱいになったらトラックに乗せるという作業の繰り返しでしたが少しずつ溝の底が見えたり他のチームの溝と繋がったりして「もう少し、もう少し」と声をかけ合いながら進める事が出来ました。終了の時刻には住宅街の一角の溝が全てきれいになり、少しでも何かできたことが嬉しかったです。

今回のボランティア活動を通して改めて人と協力することの素晴らしさを感じました。

1人では難しい事も皆さんとだったらやり遂げる事が出来て復興の本当に一部ではありますが、お手伝いができてよかったです。ありがとうございました。

能登半島 輪島市 ボランティア感想 あさひ保育園 秦 睦美

今回能登半島輪島市のボランティアに参加しました。被災地は地震で崩れてしまったお家。水害で泥水が溝や家の床下に流れ込んでしまったなど、大きな被害を受けているということを実感しました。一日目は溝の泥出しをし、二日目は家の床下の泥出しをしました。

泥は重たく、かき出すのに時間もかかり体力も使いました。一日目は夕方までの作業で、溝の一部分は水が流れるようになりました。水が流れるようになった喜びと共に、他の部分はまだ水が流れず困っている地域があるのだと思うと、悔しい気持ちにもなりました。

今まで住んでいた家がこのような大きな被害を受けているのを見て、当たり前で過ごしている今の生活がどれだけありがたいかということを強く感じました。

復興までまだまだ時間はかかると思いますが、みんなで力を合わせて少しずつ前に進んでいって欲しいと願います。一人では決してできないボランティア活動・・・。

今の生活に感謝しながら、過ごしていきたいと思います。

あたりまえではない、毎日が あさひ保育園 宮本 志織

私は、今回初めてこのような被災地へのボランティアに行かせていただきました。行かせていただきたいと決めたものの、オリエンテーションを受けていく中で「こわくなってきたな。」「大丈夫かな…」と不安が押し寄せてきたことが正直な気持ちでした。

あちらでは、まだまだ復興していない道を通り、現場にたどり着きました。足場がとても悪く、身体を持っていかれてしまうような瞬間も何度もありました。先の見えない泥かき。私たちが住んでいる日常とはほど遠い中で生活されている方々を目の当たりにしました。

そんな中で私たちができたことは2日間でもほんの少しで、どうかここまでは思っていたものできたことは限られたものでした。申し訳ない気持ちが残ったままボランティアでの活動を終えることとなりました。

このボランティアを通して感じたことは、今ある毎日があたりまえではなく、かけがえのない1日であることを忘れてはならないということでした。

温かいご飯。ふかふかの布団。そして、何より関わるすべての人たちとの毎日があたりまえになってはならないのだと思いました。

今回の経験は、私にとって様々なことを考えさせていただく大切な時間となりました。このような機会をいただいたことに感謝し、今自分にできることを精一杯行っていきたいと思います。



この川が流木でせき止められて、対岸の仮設住宅が床上浸水となりました。

卒園児の保護者が輪島市で

大同保育園 三浦智香

1月の震災からの今回の豪雨で、復興が進まないままの町が広がっていました。卒園児の能登出身の保護者の方が言われた、心が折れそう・・・は、本当につらく重たいことばでした。

ひとの力でしかできない作業ばかり、浸水したお宅の床下の泥をすくい、バケツで何度も運び出し、土嚢袋に入れ、トラックに積み込み、運搬。一日掛けても、一件のお宅での作業は、とても終わらず、また次のボランティアの方に託していく。私たちは、手配していただいたバスで帰神すれば、なにもかわらない毎日が待っており、日常を過ごさせていただいています。

そんな中でも、家の台所に立つと、能登のお宅での台所のシンクが取り外され、運び出される光景が蘇り、あのシンクで当たり前、家族に料理を作る日々をずっと重ねてこられたのだろうにと、自分の日々が本当に当たり前ではないと教えていただきました。能登の台所を思い出しては、つぎに自分が何をさせてもらえるかを考えるようにしています。

いつもながら、能登への準備、調整、お見送りに出迎えなど、ありがとうございました。

神戸が、何年もかけて元気を取り戻したように、能登も復興に向かうことを

心より願っています。ありがとうございました。

体一つのボランティア活動に

大同保育園 田中めぐみ

体一つの真心ボランティアをとの呼びかけに、今回も参加させて頂きました。準備や計画や片付け等して下さった様々な方々にまず感謝いたします。

私が見ていた報道では復興に向かっていていると思っていましたが、実際に目にした輪島の光景は、手つかずの状態や元の状態に戻るにはこの先どれくらいかかるのだろうか…という印象でした。そんな状況の中、30人ほどで側溝の泥出し、家財道具や濡れたままの畳の搬出、軒下の泥出しをさせて頂きましたが、作業は重機ではできない人のみができる完全手作業ばかりでした。そして二日間で自分ができうる事を全力でさせて頂きましたが、まだまだ出来る事を残した状態で帰路につきました。私が伺ったお宅の方は、誰かに不満を言うこともなくただ黙々と片付けをされており、二日間の私達にありがとうの言葉までかけてくださいました。私は被災した経験はありませんが、毎日の生活や仕事をする中で私自身様々な方に支えて頂いていることを最近実感しています。私にできることであれば今後も何かさせて頂き、人に優しく過ごしていきたいと思いました。ありがとうございました。

輪島出身の保護者に見送られて

大同保育園

杉本亜紀

何度目かのボランティアの参加。今回はどんな感じなのか、どれくらいの状況なのか、ニュースでは流れるものの、少しドキドキしながらの参加でした。

湊川神社では私保連の方や輪島出身の卒園児の保護者の方の見送りがありました。その方々の思いを受け止めての出発。

輪島ボランティアに参加するまでは、地震の復興などについてニュースで目にすることが少なくなってきたので、復興が進んでいると思っていました。しかし今回輪島では道路の凸凹や地割れ、そのままだになっている倒壊した建物、そして建物に貼られている『危険』と書かれた赤い紙を見て、復興にはまだまだ時間がかかると感じました。

今回は大雨の災害ボランティアということで、床上の泥すくい、畳を外に出しからの床下の泥すくいの作業をさせて頂きました。限られた時間の中、少ししかできなかったお手伝いですが、現地の方にたくさんの感謝の言葉を頂きました。まだまだ水道や電気などの復旧もされていない中、ボランティアに参加されている現地の方と関わる中で、石川県の早い復興を強く願いました。

自分一人では何も出来なかったと思いますが、ボランティアの企画、備品の用意、宿、食事、バスと、手配して下さった方々のおかげで、身体一つで参加させて頂くことができました。

ありがとうございました。

平穏な毎日に感謝して

大同保育園 吉成純子

新年早々に起きた能登半島地震。お正月や夏休み明けにはいつも「輪島ばあちゃんところ行ってきた!!」と、笑顔で話をしてくれた卒園児の顔が浮かびました。大丈夫かな?と、気になりつつも何も出来ないまま月日が流れていきました。数カ月後、無事だが、とても怖い思いをし、大変な生活を送っていたことを知りました。

それからわずかしが経たずしての豪雨。ニュースが流れるたびに、涙が溢れました。そんな中、ボランティアの話があり、少しでもお手伝いできるならという気持ちで参加させていただきました。

現地に向かうバスで寝ていると、体が飛び上がり、びっくりして目を覚ましました。道路がデコボコと、ひどい状態になっているからでした。倒壊した建物や泥まみれの家々…。輪島に到着すると、ニュースで見聞きする以上に大変な状態でした。

一日も早く、輪島の方々が安心して過ごせる日々が戻ってくることを願いつつ、平穏な毎日を当たり前と思わず、感謝の気持ちで過ごしたいと思いました。

僕らにできる支援とは？

大同保育園 幣 賢人

作業内容は、築 60 年の家屋床下の泥出しでした。

ガムテープの隙間補修がされた玄関扉には、「令和 6 年 1 月 5 日」と、復興支援日が書かれていました。

泥が詰まり、キッチンが腐敗臭がたちこめ、畳は大人数名でやっと運べる重量。

床下の泥は、人海戦術で効率よく掻き出し運び、一日半かけ、目標達成になりました。

「住んで 60 年になる…」と話してくれた輪島塗業をしている家主の K さんは、80 代半ば。

御主人の遺影に向かい「お父さんが守ってくれているから…」と、K さんはつぶやき、泥にまみれた荷物をすべて出し、窓が開き、床板も剥がれた“カラッポの家”の壁に目をやる姿は、切なそうでした。

僕らの作業は、『目標達成』。でも、ボランティア一団が去った後も泥だらけの杉板を引き続き、丹念に洗っている K さんの姿を見ると、僕らにできる支援とは？と強く考えさせられます。



石川県の一日も早い復興を

大同保育園 亀井南奈

今回初めてであり、どのような現状なのか全く予想もできず不安もありながら、少しでも力になれたらと思い参加させていただきました。実際作業に取り掛かると想像以上の力作業であり、水に浸かった畳はとても重く何人かで一緒に運び出したり、また床下の溜まった泥は 30 センチほどあり足がとられてしまうほど粘度が高く、歩くことも難しかったです。その泥をスコップでかき出すのは重くてとても力が必要でした。泥を袋に詰め、外へ運び出す、それを何度も繰り返しました。地震や水害の災害現場を目の当たりにし、傾いた家、ひび割れた道路、床下にある泥、溝いっぱい溜まった泥、一日二日では当然もとに戻すことのできない現状に、復旧にはまだまだたくさんの時間が必要なんだと実感しました。私たちが今当たり前に過ごしていることに感謝し、石川県の一日も早い復興が進むことを願っています。

初めての災害ボランティア

大同保育園 白井 彩乃

今回初めて災害ボランティアに参加させていただき、現地はどのような状態なのか、自分にできることはどんなことなのか、わからないことが多くあり、不安な気持ちを抱きながらの参加でした。

9 月の豪雨の影響で家にたくさんの土砂が流れ込んでいたり、断水がまだ続いている地域があったりと現地に行って状況を見たり、現地の方にお話を聞いて初めて知ったことが多くありました。

また、テレビ等での報道を見て、復旧が進んできているように感じていましたが、支援が行き届いていない現状についても目を向けることができました。

お家の泥を出すお手伝いをさせていただき、この街が好きで輪島に居たい。この家に住みたいと強い思いをもって生活される方々の思いを知り気持ちが熱くなりました。

あっという間の 2 日間で、お手伝いできたことはごく一部にしか過ぎませんが、また何かの機会に復興に向けてのお手伝いができたらとても嬉しく思います。

① 本助成で行った活動の内容

- 9月21日の輪島地方の豪雨災害に際し、急遽活動の手配をして30名の連盟関係者が、10月4日20時、神戸よりバスで出発して、輪島市に向かった。
- 5日朝8時到着し、あたり一面の泥に埋まった、道路、側溝、家の床板をはがしての泥出しに一日奮闘。
- 17時作業終了し、19時30分、宿の確保が出来た高岡市で宿舎に入り休む。
- 6日朝5時に起床し、バス内でおにぎり朝食、道路状況悪く、8時ボランティアセンターに到着、現地各所で昨日と同じような作業をする。
- 12時30分、現地の社協職員と、下(しも)市議員様に見送られて帰途につく。
- 15時20分、遅い昼食を食べて、一路神戸へにつく。
- 22時25分も湊川神社前に帰還し、役員さんたちの出迎えをうける。
- 23時5分、道具や機材を降ろし、整理して解散。

② 課題と今後の取り組み

- 能登の大地震の被害も、そのまま各所に残り、道端にペシャンコになった古い家々、曲がった電信柱、積み上げられたガレキの山、ガードレールが浮き上がった道路など、復旧には道遠しと、感じた。
- 現地を見て、国の大々的な復旧支援が必要と感じました。

③ 寄付者へのメッセージ

- 被害状況に際しては、ささやかなボランティア活動ではありましたが、活動費を寄付して下さった方々の温かい真心は伝わり、現地の人々は心から喜んで下さった。
- 阪神淡路大震災から30年を経過する今日、ボランティア元年と言われた温かい募金は、現在社会を支える溶液・真心として活用が期待されていると思います。